



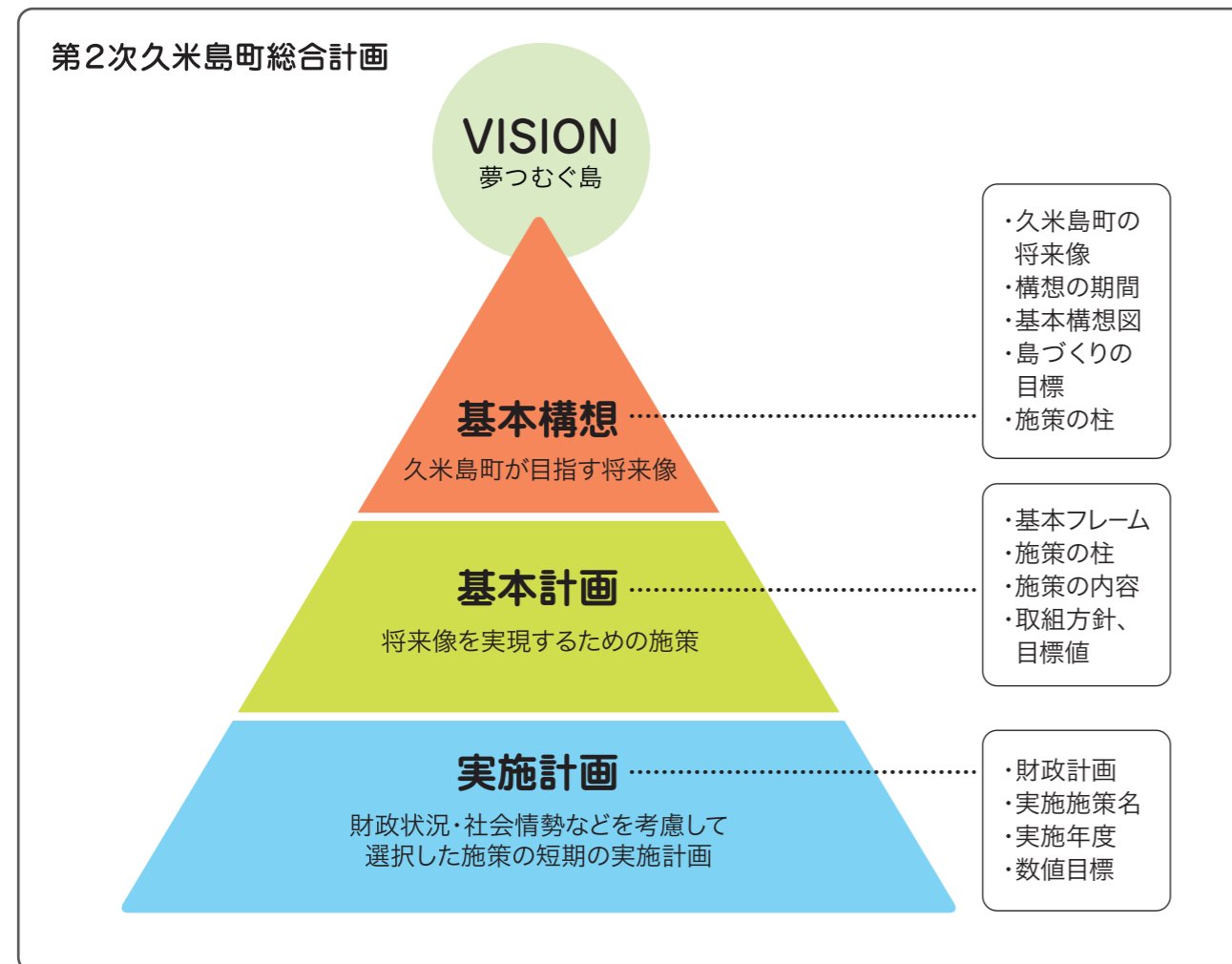
計画策定にあたって

1. 計画の構成と期間

第2次久米島町総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画によって構成されています。基本構想は、久米島が目指す将来像とそこに向かうアプローチを示しています。基本計画は、その将来像を実現するための施策(実現するための具体策)を示したものです。実施計画は、基本計画で示された施策の中から、財政状況や社会情勢を考慮して選択し、実施する短期計画であり、予算編成の指針にもなります。

基本構想の対象期間は2016年度(H28)～2025年度(H37)であり、基本計画は前期、後期に分けて5年分ずつの策定となります。また、実施計画は3年ごとに策定し、細やかな振り返り作業と修正をしつつ、より確実な計画実行を目指します。

縦糸横糸が紡がれることにより、強固で味わい深い織物が生まれる久米島紬のように、この計画も各分野が縦横に交わり連携することによって、豊かな久米島の未来図が紡ぎだされるような構成となっています。



2. 計画策定の意義

2002年(H14)4月の合併から、「久米島はひとつ」を目指して進めてきた第1次総合計画を経て、今、私たちは、改めて50年、100年先に続く未来の久米島づくりに向けて大きく舵を切る時にきています。

第1次総合計画でも課題として挙げられ、さまざまな取り組みがなされてきた人口減少問題ですが、依然として**減少傾向に歯止めがかかりません。**

どのような島づくりを目指すにしても、この問題に抜本的な解決を見ない限り、夢を結ぶ未来図は描けません。

人口をこれ以上減らさないようにするためには、まず**「住民が安心して暮らし続けられる島」**であること、そして**「外から人をいざなうことができる島」**であること、つまり定住人口・交流人口の増大が大前提となります。その実現方法を探るためには、これまで以上に多くの住民が総合計画を**「自分ごと」**として策定に関わり、計画完成後もその実現過程において主体的に関わることが必要となります。

町内の各分野で現在抱える課題を洗い出し、官民一体となって、それぞれの課題ごとに、**中止すること、改善すること、新たに始めること**を検討します。そして、課題解決に向けての施策を講じ、それぞれが「自分ができること」を見つけ、実現に向けて動きます。しかし、それらは互いに異なる分野でありながら、共に共通の、しかも喫緊の課題である「人口減少」に「ストップ」をかけるような動きにならなければいけません。

これから10年、島が一丸となり、さまざまな角度から本気で動くことができるかどうかを試されます。**そのための羅針盤**となるべく、この第2次総合計画は策定されました。